

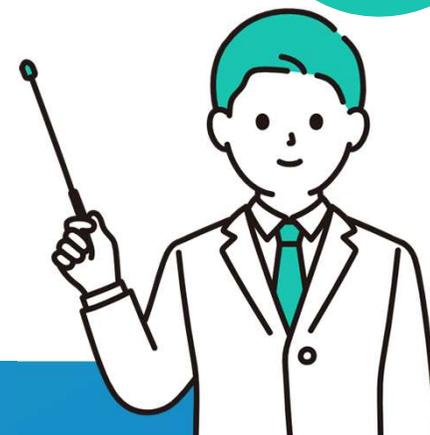
指示待ち職員を生まない！

自律人材を育てるために、
新人研修で伝えるべきポイントとは

新人に
必要なこと



自律を
促す！



こんなお悩みはありませんか？

どんなカリキュラムを作成すればいいのかわからない

新人が期待通りに成長しない

行動や考え方を変えてもらうのは難しい



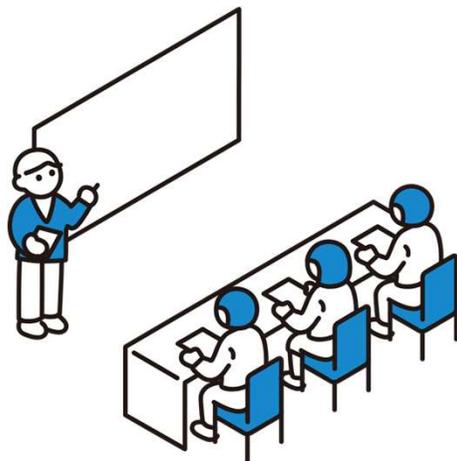
新人研修を実施する意義

学生から社会人への変革



「与えられる側」から
「与える側」に。

企業理念の浸透



企業理念に基づいて判断し、
行動できるようになる。

コミュニケーション強化



共に学ぶ仲間がいると
モチベーションが高まり、
成長意欲が生じやすい。

新人研修組み立てのポイント3つ

1



社会人としてのマナーだけではなく、ものの見方や考え方に関する要素を伝えること

2

組織
目標

=

研修
目標

組織の目標と研修の目標が合致していること

3

役割3

役割2

役割1

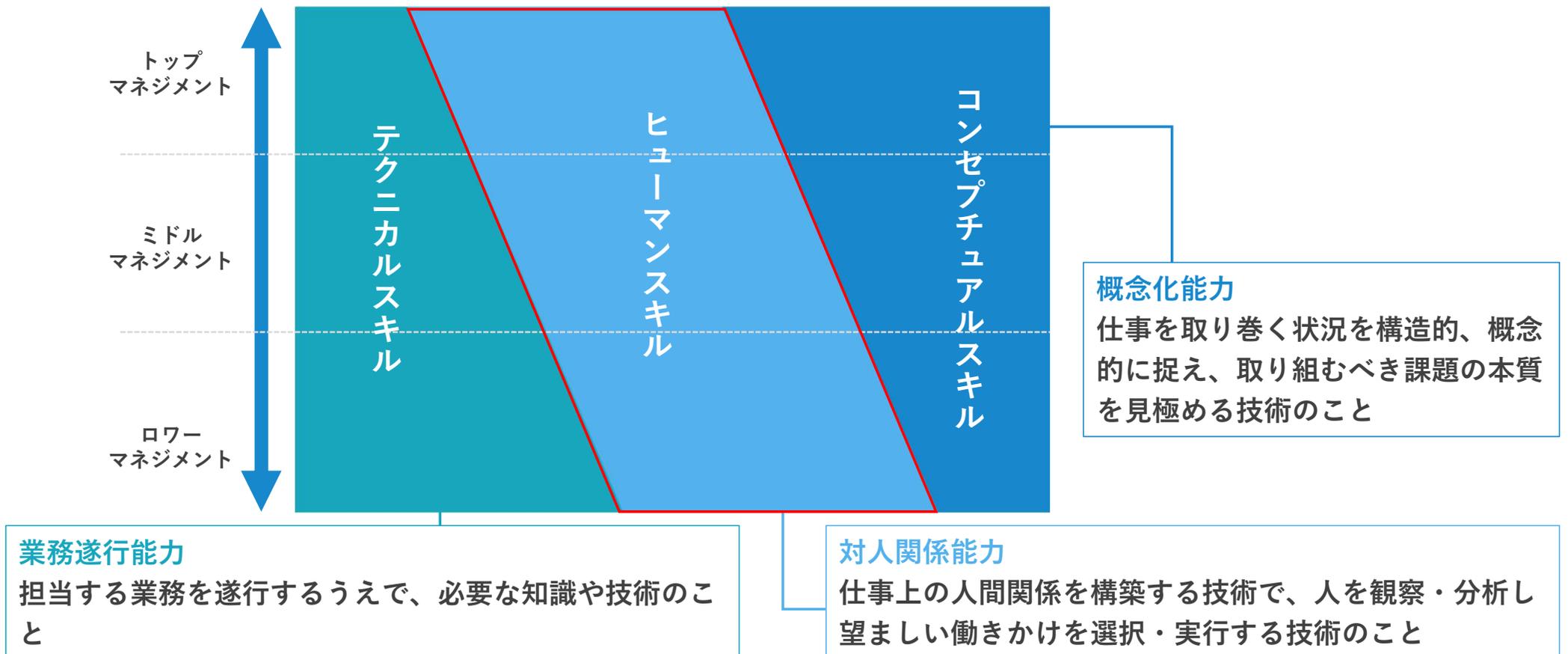
各階層に求められる役割やステップを明記すること

新入職員の成長スピードを決定づけるポイント！

カツモデルに基づく人材育成モデル

カツモデルとは、アメリカ経営学者のロバート・カツ（Robert L. Katz）が提唱した「マネジメントに必要な3つのスキル」に基づく人材育成のフレームワークのことです。

組織にとって必要な人材像と、どうやって育てていくかを明確化したうえで、体系的な人材育成を促進します。特に社会人の基礎となるヒューマンスキル（人格能力）の育成がカギになります。



モノの見方・考え方

考え方や価値観は、仕事の結果に大きな影響を与えます。
考え方が改善されれば行動が改善され、良い仕事に繋がります。

仕事の結果 = **考え方** × **熱意** × **能力**

(稲盛方程式)

顕在意識

行動・態度

潜在意識

意思決定スタイル

価値観・思い

欲求/欠乏

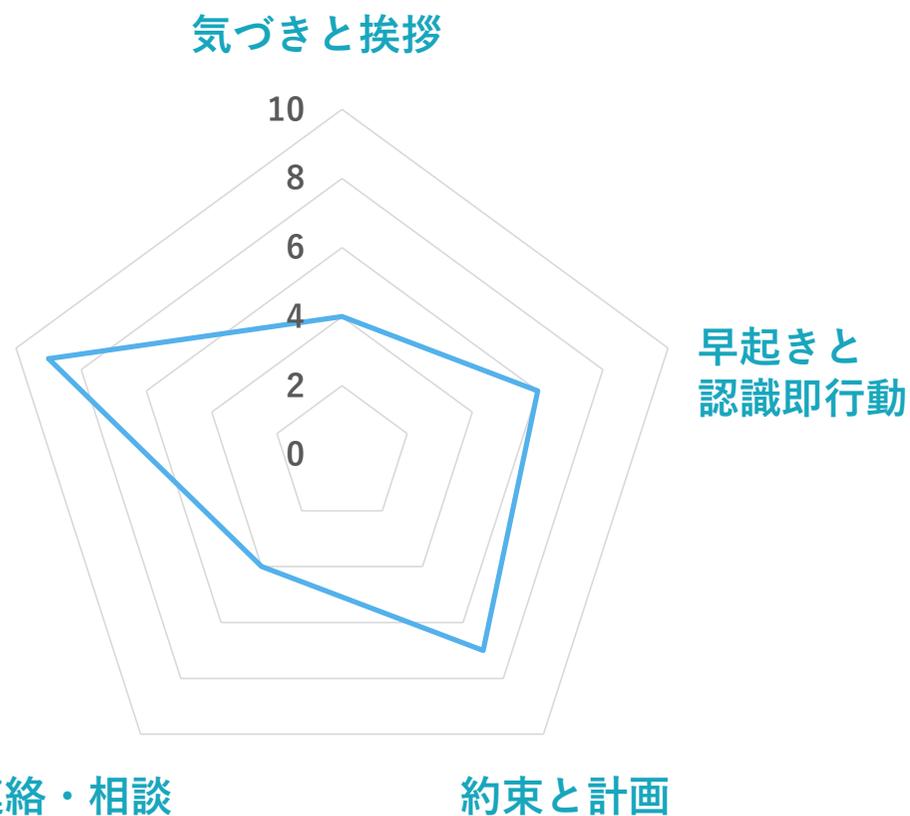
基準行動

社会人の基本となる行動指針として、5つの基準行動をお伝えしています。

- ① 気づきと挨拶（信頼関係を高める）
- ② 早起きと認識即行動（行動力を高める）
- ③ 約束と計画（目標を実現する）
- ④ 報告・連絡・相談・打ち合わせ・根回し（意思疎通を高める）
- ⑤ 整理・整頓・清掃・清潔・しつけ（生産性を高める）



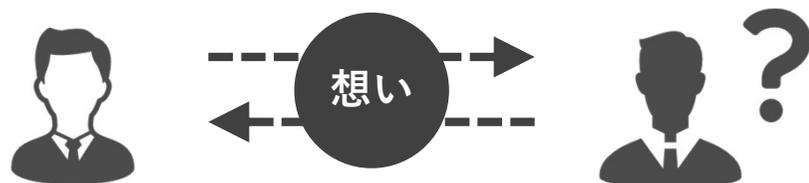
整理・整頓
清掃・清潔



善い考えに基づく「行動」を重視

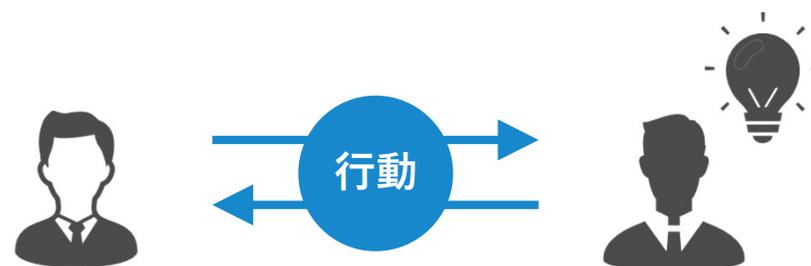
考えや思いではなく、「どのような行動として現れているか」を重視します。

人は態度・発言を含む行動を受けて間接的に思いを感じる



伝わらない

思うだけでは伝わらない



伝わる

行動を伴うことで伝わる

自利利他・自責・我が事意識

考え方が変われば行動が変わります。よって、物事を前向きに進めるための「相手中心」「自責」の考えを伝えることが重要です。

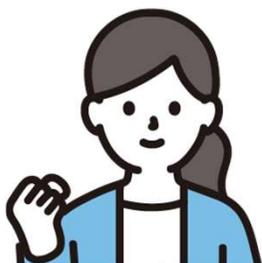
相手中心

- 何事も「相手にとってどうか」という考え方を持つ 相手とは、顧客に限らず、自分以外の他者すべて
- 相手のために尽くしていると、結果的に自分に跳ね返ってくる 自分のためだけに行動していると結局自分が嫌な思いをすることになる
- どれだけ人のために尽くせたかが幸せのバロメーター
- 今の仕事は多くの職業の中でも相手に尽くせる幸せな仕事

我が事意識

- いろいろなことを自分だったらどうするか考えること
- 他の人がしていることを見て、自分だったらどうするか考えること 吸収力が高まり、成長が早くなる
- うまくいかない場合に、自分以外の責任にしないこと 自分以外のせいにするのを他責という
- 人のせいになると成長しないし、解決策が出てこなくなる 自分にもできることがあるのではないかと考えると、解決策が考えられる

お客様の声



若手以外の職員は今ある職場風土を当たり前前の風土と思っているが、新たに入職した職員は当たり前という常識がないために、いろいろな問題点に気づくことができます。新しい発見を組織にもたらししてくれる「気づき」の重要性の話が特に印象的でした。



成長スピードの違いは、指導や注意を聞き入れる素直さにあると理解できました。言われたことを素直に聞き入れる気持ちさえ整っていれば、はじめは言われたことしかできない「指示待ち職員」でも、いろいろなことに気づく能力を高めていけば「自律して行動できる職員」へと成長していくと思います。

最後に

日本経営では新人研修をはじめとした
教育体系構築や各種研修サポートを実施いたします。

詳細については以下よりご参照ください。



当社および著作権者からの許可無く、掲載内容の一部およびすべてを複製、転載または配布、印刷など、第三者の利用に供することを固く禁じます。